

第1回大野市通学区域審議会  
会議録

日 時：令和5年7月19日（水）午後7時～午後8時45分

場 所：大会議室

## 【開会】

教育総務課長：ただいまから、「第1回大野市通学区域審議会」を開会する。

## 【教育理念の唱和】

――<大野市教育理念の唱和>――

## 【委嘱状交付】

――<委員に委嘱状を交付>――

## 【会長・副会長選出】

――<会長に中森委員、副会長に萩原委員を選出>――

## 【会長挨拶】

会長：本日は各委員の皆様のご協力をいただき会議を進めていきたいのでよろしくをお願いします。

## 【諮問】

――<教育長から中森会長へ諮問>――

## 【教育長挨拶】

教育長：夜分、ご参集いただき心から感謝申し上げます。まずは一つお詫びを申し上げます。先般、大野市の学校についての報道があり、皆様には大変ご心配をおかけし、心よりお詫びを申し上げます。いろんな意味でしっかり対応して参りたい。

さて、今日は、新しい中学校の制服と体操服の写真を見ていただきたい。また8月には、市役所の市民ホールで展示されるので、ご覧いただきたいと思う。小学校5、6年生、そして中学校1、2、3年生全員にアンケートを取り、その結果を最大限重視した結果である。文句なしに、このデザインに決定し、新開成中、新陽明中の来年4月1日から着用デザインが同一デザインということになる。大野市の水をイメージした青基調のデザインを選んでくれた。学校

再編計画の中にも、基本的な考え方として大野市の場合には、小学校期は各地域のあたたかい環境の中で育てよう、そして一方、中学校期については、大野市全体の少し広い環境の中で育てようと明記されている。そのことが、この制服・体操服のデザインの統一にも表れており、市民の皆さんにも少しずつ理解をしていただけるような形になってきているのではないかと考えている。

その他にも、開成中、陽明中そして下庄小学校を見ていただくと、未来志向の学び舎づくりが始まっており、そしてその中で行われる子どもたちを中心にした授業改革もしっかり進められている。また、地域に目を向けると、部活動の地域移行なども含めて、大野市はこの学校再編を契機に、全体の教育環境、ひいては、子育て環境を総合的に整備していくために取り組んでいるところである。そんな中、約50年にわたって進学先が別の中学校になっている有終西小学校から、卒業後の進学先の中学校区について、見直しの検討をしてもらえないかという提案が、アンケート結果を含めて上がってきた。半世紀という時を超えて、学校規模や教育環境が大きく変わった今、自校の課題に真摯に目を向けて、そして具体的に行動を起こしていただいているその姿に心より敬意を表し、感謝を申し上げたい。50年前と言いますと、私がちょうどその大きい学校再編の渦中にいた当事者である。個人的な話で大変申し訳ないが、自分は小山中学校の3年生の時に、同級生20人で、当時の有終中学校の3年生9クラス約400名のところに飛び込んだ。その時に感じた期待やワクワク感と、また一方の不安など、そういう複雑な思いをずっと自分の胸に置きながら、この一連の学校再編の取り組みを進めさせていただいているところである。ただ、今回の件については、学校再編そのものとは少し距離がある課題だと思う。しかし、今、在籍している子どもたちにとって、或いは近い将来または将来にわたっての子どもたちにとって、どういう形が中学校の進学先としていいのか、今のままでいいのかということ、多角的に検討いただきたいと思っている。今、我々の進めている総合的な観点、或いは持続可能な観点なども含めて、よろしくお願ひしたい。先ほどの諮問文とあわせて一言お願ひ申し上げる。どうか子どもたちのために、お力添えをいただきたい。

#### 【会議録署名人】

会長：本日の会議録署名人は、大矢委員、大石委員にお願いする。

#### 【議事】

会長：1「有終西小学校の現状と諮問に至る経緯」について、事務局の説明をお願いします。

――＜事務局説明＞――

会長：ご意見、ご質問等があればお願いします。

委員：有終西小学校の意見交換会の参加者が8名と聞いて、意見やアンケート結果を読ませてもらったが、現実的に意見交換会に8名しか参加しないということは何か保護者の間でも、意識に大分温度差があるのではないかという気がするが、その辺はいかがか。

事務局：意識の問題なのか、それとも当日、大雨だったということもあるのかもしれない。また、都合の悪い方にはライブ配信をするというご案内をしていたことも参加者数に影響があったかもしれない。後程、PTA会長からも意見を伺う機会があるので、その辺りも聞いていただきたい。

――＜その他に意見・質問なし＞――

会長：続いて、2「審議会のスケジュール」について、事務局の説明をお願いします。

――＜事務局説明＞――

会長：ご意見、ご質問等があればお願いします。

――＜意見・質問なし＞――

会長：続いて、3「参考意見の開陳」について、事務局の説明をお願いします。

――＜事務局説明＞――

――＜有終西小学校 PTA 会長、有終西小学校長が入場＞――

会長：本日は委員の皆様にもまずもお詫びとお礼を申し上げたい。また、教育長様を初め、大野市教育委員会の皆様には、来年、大きな中学校再編を控えている中で、我々のアンケートに対してこの審議会立ち上げにご尽力いただき、重ねてお礼申し上げたい。

一番最初の取っかかりは、今の中学校1年生が当時6年生の時に、アンケートを実施した。PTAや本部役員がお願いしたわけではなくて、学校側が、実際は開成中と陽明中に分かれることに対してどう思うかというアンケートをとったところ、寂しいという意見が多かったという意見を聞いた。前年度の会長や、私は前年度副会長だったが、本部役員の中でも、例えば1つの中学校に行くとしたらどのような方法があるかとか、逆にデメリットとしてはどんなことがあるかという意見交換をした中で、役員の中ではかなりメリット・デメリットの話が出た。今、一つの中学校に行くということは少し難しいかもしれないし、やはりみんなで一つの中学校に行けたら良いという意見もあるかもしれないから、皆さんにアンケートをとってみようということでこのアンケートをとって、皆様のお手元にある資料となっている。多少浅はかだったかもしれないが、アンケートの結果を、我々としては子どもたちの意見なので、今度は子どもたちの意見をどう酌み上げるのが良いかを考えるのがPTAとしての役割だと思うので、そこを配慮していただいて、我々はここまでしかできないの

で、後は教育委員会の方をお願いして、この後は、保護者のことや地域のことに関しても、重ねてここで審議していただけるようお願いしたい。

校長：今、会長も申し上げたが、本校を卒業する児童の進学する中学校の校区について、お忙しい中、審議するためにお集まりくださったことに感謝申し上げます。

私からは、学校としての観点から話をさせていただきたい。まず、有終西小学校から開成中学校へ進学すると、9年間の学びの繋がりができるというところを考えていきたいと思った。大野市は、幼小中高と18年をつなぐ教育の実現を目指している。幼小、小中、中高の連携がすごく大事だと思っている。それから現在、大野市内では、有終西小学校と有終東小学校だけが二つの中学校、開成中学校と陽明中学校に分かれて進学している。それ以外の小学校については、すべて同じ中学校に進学しているという現状がある。また、子どもの思いということで、今会長も申し上げたが、有終西小学校の卒業生は、卒業する時に悲しい思いをした児童も多い。それから、学校再編とは切り離してという話を先ほど教育長がおっしゃったが、大野市は学校再編において、子どもの思いを具現化したいため、制服についてもそのようになったと考えているということもあり、通学区域についても、子どもたちの思いを汲み取ってもらえるのではないかということも考えた。

それと、本部役員会で話し合いをしたと会長が申し上げたが、その中でも、平成21年の文部科学省の小中学校の設置運営のあり方等に関する作業部会の第11回目の資料に次のように書いてある。小学校と中学校の連携等ということで、「統合や通学区域を再編する際、小学校と中学校の連携という点からは、同じ小学校の卒業生が同じ中学校へ進学できるよう通学区域の設定を行うことも望ましい」と出されている。慎重な審議をしていただきたい。

会長：ご意見、ご質問等があればお願いします。

委員：お2人のご意見についてというか、具体的に、学校のキャパシティ的にはどちらに流れるとなった時にも可能かというのがまず大前提かと思うが、その辺りは問題はないのか。

事務局：どちらの学校でも問題はない。

委員：アンケートも全部読んで、その中で今、有終西小学校の校長先生から、文科省から小学校から中学校に上がることについて、校区がそのまま同じというのが望ましいという話があった。アンケートにもいろんな意見があって、なかなかまとまるのは難しいかなと思いつつ見ていたが、一番根底にあるのは、子どもたちが一緒に行きたいというのであれば、子どもたちの意見を汲んで1つにするのもいいのではと思った。要するに校区として、有終西小学校が一つの中学校へ行くということ、ただそうすると、有終東小学校はどうするかという話にもなってくると思う。だから私は、距離的な問題はあるかもしれないが、

いっそのこと有終西小学校は開成中へ、有終東小学校は陽明中学校へと、有終西小学校だけの問題じゃなく有終東小学校も一緒に考えるとどうかと思うが、その辺はいかがか。

事務局：ご指摘のとおりだが、諮問書にも書かせていただいたように、今回はまず有終西小学校の校区について集中して議論をいただきたいと考えている。決して有終東小学校については検討しないというわけではなく、今二つの校区を同時に検討することには、非常に難しい面もあると考え、今回のこの審議会については、有終西小学校からの進学について、まずはご検討いただきたいと考えている。

委員：今おっしゃることは分かるが、中学校の再編が、確か最初は1校だったが、いろんな事情の中で2校に分かれたという時において、単に他の中学校との合併だけじゃなくて、当然小学校の校区のあり方というのが考えられたと思う。だから、たまたま今回は西小学校から出たことだろうが、本当は同時に東小学校も考えて欲しかったというのは私の正直な意見である。ただ、審議会がもうスタートしたので、おっしゃるとおり段階を踏んでいただければいいと思うが、他の学校のことも早く考えていただきたいというのが私の思いである。

教育長：6月の市議会でも、議員の中からそのような意見が出たが、その時に私は、この機会に有終東小学校の校区についても検討していきたいと回答をさせていただいた。今小学校の再編が令和8年度に迫っている。そこまでは申し上げなかったが、タイミングを見て、有終東小学校の件についても検討していきたい。

会長：私から1点、お伺いしたいが、PTA会長は、最初の経緯を少しお話になり、具体的な思いというのはあまりお話にならなかった。一方で校長の話は、どちらかというとも子どもはみんな同じ中学校へ行きたいという思いを持っているので、子どもの思いを汲み取って欲しいというお話があったと思うが、そういう理解でよいか。

校長：そういう思いを持っている子が多いが、全員とは言えないと思う。そして、子どもの思いを具現化するというのは、大野市の再編の時の考え方であると思うので、そこに合わせて考えていただきたいと申し上げた。

会長：会長は、アンケートの結果として、大体どの位が賛成、反対、中立かというのは把握されているか。

会長：保護者としては、子どもの意見を優先にしたいという意見と、子どもの思いは分かるが、兄弟の問題があったりして実情的に難しいという意見があった。それと、陽明中学校区域の子も開成中学校に行くという方向でアンケートをとっている所以、陽明中学校付近の家の人としては困るという意見が多い。

逆に言えば、もしこれが陽明中学校に行くとなれば、開成中学校付近の人が困るとか、反対意見になるという意見ももらっている。

委員：中学校の校長先生に教育の現場で、どう思っておられるかお聞きしたい。  
昔、私は有終西小学校だったが、その時は有終中学校と下庄中学校という形であったので、私は有終西小学校から全員有終中へ行った。その時に、今でも覚えているが、しばらく南小学校から来た子たちと1ヶ月ぐらいは揉めた。やはり対抗意識というか、正直ケンカもあった。今、陽明中学校や開成中学校へ有終西小学校の子が行って、疎外感を味わうことが多いのか。

委員：開成中学校の方から先にお話しさせていただく。開成中学校には、4つの小学校から生徒が集まってきている。一番人数が多いのが有終南小学校で、ここはすべての生徒が開成中学校に来ている。それから、有終東小学校と有終西小学校さらに小山小学校からも生徒が来ている。有終南小学校以外はみんな少数の入学生である。揉め事などが発生することはないが、やはり最初は、それぞれの出身校ごとで固まってグループを作るという傾向はあると思う。特に、休み時間などは廊下に出て、同じ小学校の子どもたちが集まって話しているというのをよく見かけるが、その後、1ヶ月2ヶ月たつて、学校行事や学級の話し合いやいろんな活動をする中で、どんどん仲が良くなって行って、3年生になる頃にはもうどの小学校から来ているのかも分からないくらい仲良くなって卒業していくようになる。

委員：基本、中学校はどこも同じだと思うが、陽明中学校も、2、3年前であれば、本当に小さい乾側小学校からも来ていたし、有終西小学校、有終東小学校からも来ている。中学校としても、どの小学校から来た生徒に対しても、違和感のない教育を当然実施するよう努めているし、子ども同士でも、違和感なく過ごしているように思える。

——<有終西小学校 PTA 会長、有終西小学校長が退場>——

会長：続いて、4「意見交換」を行いたい。

委員：アンケートの中のキーワードが幾つかあると思うが、やはり疎外感というところに目を向けている子どももいると感じた。校区を見てもそうだが、広さもある程度同じような範囲で、通学というキーワードもあると思うが、通学する時の問題はすごく大切になってくると思うので、一つにまとめる難しさというのを今、感じている。有終西小学校は、陽明中学校と開成中学校に分かれるということが事前に分かっているのに、開成中学校のスタイルしか子どもたちに教えていないとか、それで指導しているということも問題かと思う。陽明中学校に行く子がいるのに、陽明スタイルの話を具体的にしていないのは少し問題かなと思うので、中学校に上がる時に、中学校のスタイルを子どもたちに前もって指導をしていくということのも大事な繋がりの一つではないかなと思った。

委員：私はあまり今までそういうことに関心がなかったが、委員がおっしゃった陽明スタイルや開成スタイルというものがあるのか。

委員：簡単に言えば、陽明スタイル開成スタイルというものがあるわけではない。当然、学校の特色が出てくることはあると思う。基本的に日本の小中学校で目指すところというのが示されており、それを基に、福井県、それから大野市教育委員会の方で、こんな子どもたちを育てていきたいと思いますという方針も出ている。そういう方針の中で、当然、開成や陽明だけでなく、今5中学校あるが、中学校同士でも意見交換や情報交換しながら、どうしたらそのような目指す生徒に育てていけるかということ、試行錯誤しながら工夫して取り組んでいるところである。だからこそ、教員が変わったり、校長が変わったりする中で、目指す方向に進むために工夫しながら学校経営していくので、ただそれも先ほど申し上げたように、全校長でいろいろ共有しながら進めていく。だから学校ごとの特色が出てくることはあるが、その方針等が大きく変わるとか、元々から、開成スタイルや陽明スタイルというものが固まってあるものではない。私も陽明中学校2年目だが、以前の陽明中と違うことや方向性で変わってきているところもあれば、目指すものもより具体的に出させてもらっているところもあるし、開成中もそれは同じだと思う。今おっしゃっていたのは多分、学校だよりを地区の方にも回覧していただいているので、それを見ておっしゃってくださいと思っている。有終西小学校で育った子が少数陽明中学校に来て、全然教育が違うという違和感を感じるようなことは基本的にないと思うし、開成中学校の場合も同様だと思う。

委員：今現在西小学校の児童は、大体1学年20人ぐらいと聞いている。それが半分になると、開成と陽明に分かれて10人ぐらいしかいない。保護者に聞いたところによると、子どもたちが大きい学校に入っていくと、やはり最初は威圧感みたいなものあって、馴染めないらしい。すごくエネルギーがいると思う。まだ心が十分育っていない小学校の子どもだから、とても寂しい思いをしたりする子がいるのではないかと思うので、たくさん的人数でまとまって行けたら子どもたちも元気になるのではないかと考えている。子どもが元気に学校へ行って、学校生活が楽しくできるにはどうしたらいいかとずっと考えていたが、なかなか難しいと思う。

委員：僕も勉強不足だったが、平成21年文科省の小中連携というものに、同じ学校が望ましいというのがあるのを知らなかった。ただ、それも一つの手なのかなと思う。学校ごとに中学校を決めてもいいという思いもあるが、これは全体的な意見をもっと数値化して、数字で分かるようなとり方をして、現状どのように考えている方がどれくらいいるかというのをはっきりさせた上で話し合いを進めていかないと難しいと思う。兄弟姉妹がいると少し大変になるが、2年間我慢すればということにはなるので、そこはフレキシブルに考えたい。

選択制で逃げ道みたいにしてもいいかもしれない。

時間的なところもあるので、今年度中はもしかしたら難しいかと思う。

委員：中学校1年生の保護者にもアンケートをとられたが、今後まだ小学校1、2、3年生の保護者や小さい子どもたちの保護者は、どのような気持ちかということも聞いてみたいと思う。

会長：委員は、アンケートをもう少し数値化した方がいいというお考えか。

委員：例えば、一つしか回答できないとした上で、西校区内は全員開成中学校に行った方が望ましい、とか、現状のままで良い、とか、はっきりマルかバツが付けられるようなものにする。中学校3年生から小学校1年生まで対象とする。その数値を基に、現状こういう人が多いということが分かった上で、ではどうしようかという話をしないと、私たちも中間的な意見でしか話ができなくて、今のままで良いという形で終わるような気がしている。

会長：このアンケートが教育委員会に出された経緯というか、数値化しなかった理由とか、こういう出し方にした思いとか、何か聞いているか。

教育長：対象は去年の保護者全員、1年生から6年生の保護者全員と聞いている。100%賛成、100%反対という気持ちをはっきりしている方は別として、通学距離の問題とか、きょうだいの問題とか、友だち関係の問題とか、いろんなことが絡んでいて、意思表示が明確にできないということがあるので、文書で気持ちをお聞きしたと聞いている。

委員：例えば、選択項目にして、完全に開成、完全に陽明、やや陽明、やや開成、今のままで良い、というような5段階ぐらいのマルを付けるだけのアンケートをとったら、目に見えて分かりやすいので私たちも考えやすいと思う。

それと、中学生の意見も踏まえて、学校が分かれてどういう気持ちだったか、3年間の思いや、1年目の思いなど時系列的に全部聞いていくということと、小学校1年生が、6年後にどこに行きたいかというところの意見まで全部聞いていくことができれば全ての意見を吸い上げられると思う。有終西小学校から出てきたアンケートに対して、教育委員会からの調査として実施してもらえたら、とても分かりやすい資料になると思う。

委員：委員の意見に賛成する。最終的な判断をするにしても、判断材料の資料が少ないと思う。どの範囲のどの世代の方にアンケートを取るかは、話し合いが必要かと思うが、そのようなことをやった方が、我々としても判断がしやすい。

委員：本当に決めるということがなかなか難しいことだと思うが、ただ、私が思うのは、今のことだけを考えていても駄目なのではないか。将来ということを考えてみると、特に有終西小学校が一番顕著だと思うが、10年たったら、有終西小学校の生徒がどれぐらいいるのか。その時に1クラスに10人いるかいないかぐらいのクラスになるのではないか。もちろん慎重に決めなければいけないが、みんなの意見を聞いて、そのままなかなか決められないというのではなく、

将来のことを考えると、どこかで線を引いて決めなければいけないと思う。だから一番いいのは、私は有終西小学校は開成、東小学校は陽明というようにどこかで線を引いた方がいいのではないかと思う。もちろんいろんな意見があって、距離的な問題とか、きょうだいがいるとかの問題もあるが、それを一つ一つ考えていると、結局できないと思う。だから、文科省の方針もそういう方針で、これが自然な姿ではないかと思うので、私は有終西小学校の生徒は全員が開成中学校へ行くということに、今の時点では賛成である。

会長：教育委員会から諮問書を受け取ったので、諮問書にそって意見をしっかりと出し合って決めていかなければならない。

委員：不安に思っていることを述べたい。もう50年近く、今の校区で続いてきている。中学校の再編については、すごく長い時間をかけて、教育委員会の方々が各地区に出向いて話し合いをして理解を求めながら、時間をかけて進めてきた。今回のこの有終西小学校の進学先については、7月に審議会を発足して、その次の令和6年度の4月からそれを行うということについて、小学校の各地域の方々が、十分ご理解して協力していただけるのかという不安がある。

委員：どちらかに決めて、選択性ということを多分、導入せざるをえないと思うが、そうなった時に、すごく陽明中学校に近い水落地区の方とか、逆に子どもたちがバラバラになってしまわないかという心配もある。先ほど、何か他に欲しい資料はないかと言われたが、どの地区に何人ぐらいの子どもがいるかというのが分かると良い。本当に開成中学校の方がいいのかとか、陽明中学校じゃなくていいのかとか、その辺も本当に話し合いをしていくのであれば、そういう議論もしていけないといけなくなるのではないかと思う。

委員：西小学校サイドから、教育委員会に問題提起として出てきたわけだから、もう西小学校サイドはこちらにしたいという要望が強いのかなと思っている。ただ、勝手にはできないからこの審議会で検討してほしいと要望してきた。西小学校としてはもう、方向性としては決まっているのではないかと思う。

委員：私もそう思う。数値化したいと言ったアンケートを見ると、そちらの意見の方が多。かわいそうだから一緒にしてほしいとか、自分も寂しい思いをしたことがあるとか。本当にしっかりやるのなら、私が言ったようなことかとは思いますが、委員がおっしゃるように、出しているということは西小学校の思いは決まっているんだろうと思う。

教育長：西小学校の方針がもう決まっているのかということについては、そこまでは確信は持てない。ただ、大矢委員もおっしゃったように、意見を賛成か中間か反対かと分けて見ると、割合的にはおっしゃったとおりの結果だと思う。ただ、西小学校として、進学先を開成中の方という統一的なところまでは、PTAでは決められないので、こちらの方をお願いしたいということだった。その要請を教育委員会としてお受けした一番のポイントは、アンケート結果を

教育委員会に提出をして進学先の見直しの検討を求めて良いかというアンケートもとられたところ、全世帯116世帯中110世帯が出しても良いという結果だったことである。ほとんどの方が、とにかく一度、正式に検討して欲しいという思いだったので、お受けしたということである。ただ距離の問題も、きょうだいの問題も、友達の問題もある。この辺りをどのように考えるとうまく移行ができるのか、先ほど選択制というお話もあったが、そうなるか完全選択なのか、距離のことを考えるのか、また、きょうだいについては、どのように配慮するか、その辺りの具体的なことも併せてご意見を伺えるとありがたいと思って、諮問書を提出させていただいたということである。

会長：続いて、5「その他」について、事務局の説明をお願いします。

——<事務局説明>——

会長：ご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

会長：以上で議事を終了する。

#### 【閉会】

副会長：本日は暑い中お集まりいただき感謝申し上げます。来月に第2回の審議会を開催し、またいろいろな意見を聞かせていただきたいと思いますので、ご協力をよろしくをお願いします。